

保全会たより

特集号

門田保全会が中国四国農政局長表彰の「最優秀賞」を受賞!!

門田地区農地・水・環境保全会が、平成20年度に活動を始めてからちょうど10年の節目の年に、中国四国農政局長表彰の「**最優秀賞**」という大きな賞をいただきました。

門田地区のような活動組織は、鳥取県内に700以上、中国四国9県では4,500以上もあります。その中から選ばれたことは、大変栄誉なことです。



1月12日(金)、中国四国農政局(岡山市)で**表彰式**があり、岡本隆夫代表に表彰状が授与されました。学識経験者からなる選考委員会では、門田地区の最優秀賞には異論がでなかったとのことです。選考委員長からは、①アンケート調査を実施し、毎年将来の農地保全について話し合いをしていること、②様々な活動を通して地域が活性化していること、③農地の集積が進み、将来の人材育成にも努めていること、以上3点を評価したと講評がありました。

表彰式のあと、意見交換会が行われ、活動内容や今後の課題等について話し合いがもたれました。

1月17日(水)、**湯梨浜町長へ受賞の報告**に行きました。その時の様子は、町広報やケーブルテレビで報道されました。

また、1月25日(木)、高知市で多面的機能支払**中国四国シンポジウム**が開催され、代表が門田地区の事例発表を行いました。中国四国管内の活動組織など約800名の参加がありました。

2月17日(土)、ハワイアロハホールで多面的機能支払の**県内研修会**(約500人参加)が開催され、改めて国から代表へ表彰状が授与されました。その後で、代表が門田地区の取組を事例発表しましたが、他の活動組織からは「参考になった」「マネができん」などの声が聞かれました。事例発表には、**濱田梨乃さん**(6年生)に田んぼの学校に参加した感想文を読んでもいただきました。会場からは大きな拍手があり、「とてもよかった」「胸にジーンときた」との言葉がありました。

濱田さんの感想文は次ページに掲載しています。



「田んぼの学校」に参加して



濱田 梨乃

私はこの六年間、「田んぼの学校」に参加して、初めての経験をたくさんすることができました。

春の田植えでは、裸足になって冷たい土の中に足をつっこみました。まるで、冷たくしたもちに足を入れているみたいな感覚だったので、気持ち悪かったです。足を洗うときは、田んぼの近くにあった用水路で足を洗いました。つめの中や、足の指と指の間に泥が入ったりしたので、洗うのが大変でした。



秋の稲刈りは、今年は雨で中止になってしまったので、1年生～5年生までの経験を発表します。

初めて見る形をした鎌で、切ったらザクザクっと少し固い感じがして楽しかったです。稲を刈るときに、切る所を少し工夫して迷路のようにして楽しみながら稲刈りをすることができました。稲刈りをした後は、毎年、婦人会の方々のにぎってくださったおにぎりを食べます。疲れきった後に食べるおにぎりは、いつも食べているおにぎりよりおいしく感じました。

夏の看板づくりでは、みんなでペンキを楽しくぬれたので、思い出に残っています。3原色の色を使って、どんな色をつくるのか考えたり、こんな色を混ぜてみよう、子供会全員で楽しむことができました。看板づくりの最後に、私が「門田保全会」と書く役があったので、失敗しちゃいけないと思い、とっても緊張しました。一字一字ていねいに書くことができました。



保護者の方などが上手いなどと言ってくださり、とても嬉しかったです。この私たちが作った看板は田んぼにかざられて、看板を見るたびに、あの楽しくおもしろかった思い出が、頭にうかびました。



冬はもちつき、正月かざりづくりをしました。餅つきは、機械ではなくうすときねを使い、自分たちでもちをつきました。きねは少し重くて、つくときのバランスがとりにくかったです。ついたもちは、きなこもち、あんこもち、おしるこにして食べました。私は特にきなこもちが好きなので、きなこもちをたくさん食べました。お店で売っているもちとはちがって、つきたてであったかくて、自分たちのついたもちだったので、とってもおいしかったです。

正月かざりづくりは、しめなわと福木をつくりました。しめなわは一つとっても難しいところがありました。それは、二本のなわを一つにするために、クルクルッとするところです。いくらがんばってもできなかったので、お母さんにやってもらいました。福木は白いもちとピンクのもちで、めでたい感じになるようにしました。手にもちがいっぱいつきました。かざるもちを少しつまみ食いするのが楽しかったです。



この六年間、田んぼについて学んできて、私が思ったことはとくに二つあります。一つ目は、協力することができるということです。たくさんの行事を通して、いろいろなところで子供会のみんなで協力してきた場面が多くあって、一人ではできないようなことも、みんなで力を合わせてがんばったら、成しとげられることを学びました。例えば田植えで、一人では多くの面積をするのには時間がかかります。でもチーム一丸となって取り組むと、短い時間ですることができます。

私は今年で田んぼの学校は卒業してしまうけど、このような姿を受けついでいってほしいと思っています。

二つ目は、ふだん食べているお米のありがたみです。私は、ご飯は食べることができて当たり前だと思っていました。でも、田んぼの学校で米づくりを経験するにつれて、毎日お米が食べられるのは当たり前じゃないということがわかりました。私たちがお米を食べられているのは、お米をつくってくださる農家さんのおかげで、お米をつくるのには毎日毎日苦労しながら作ってくださっているということを考えながら食べることができるようになりました。

私はこの六年間、田んぼの学校ができて、たくさんのことを学べたので、嬉しく思っています。



湯梨浜・門田 地区最優秀賞

多面的機能発揮
事業農政局長表彰
中国四国農政局は19
日、本年度の多面的機
能発揮促進事業で中国
四国農政局長表彰を発
表した。湯梨浜町の「門
田地区農地・水・環境保
全会」(岡本隆夫代表)
が最優秀賞を受賞した。
水路や農道などの保
全管理、地域農業や農村
環境の維持などに意欲

的に取り組む団体を支
援するため、2007年
度に創設された多面的
機能支払交付金制度。本
年度は中国・四国9県
4500団体の中から
最優秀賞2団体、優秀
賞6団体が選定された。
県内での最優秀賞受
賞は3団体目。「門田
地区農地・水・環境保
全会」は、小学生から
高齢者まで世代を超え
た活動で集落コミュニ
ティーが向上し、活性
化につながっているこ
とが評価された。

2017年12月21日 日本海新聞



1月17日に宮脇正道町長へ受賞報告を行いました

門田地区農地・水・環境保全会

多面的機能発揮促進事業 農政局長表彰最優秀賞

農業施設の保全管理、地域
コミュニティ強化の取り組
みが評価され、門田地区農地・
水・環境保全会が、多面的機
能発揮促進事業の農政局長表
彰最優秀賞を受賞しました。
同会では、農道や水路の保
全管理、生き物調査、植栽活動
伝統的農業文化の伝承活動な
どを展開。小学生から高齢者
まで、世代を超えて地域の活
性化に取り組んでいます。

広報ゆりはま 2018年2月号

多面的機能支払 制度の認識深く

湯梨浜で研修会
洪水や土砂崩れを防
ぐなど農業や農村の持
つ多面的機能が適切に
発揮されるよう、農地
や水路、農道の保全管
理などの共同活動を支

援する「多面的機能支
払制度」の研修会が17
日、湯梨浜町のハワイ
アロハホールで開かれ
た。約500人が参加
し、事例報告や講演を
通じて制度への認識を
深めた。
研修会では、高齢化
などで全国的に制度活
用が減少傾向にある
中、鳥取県では活動組
織や面積が増加し、今
後も積極的な活動が見
込まれることなどが報
告された。
制度の中国四国農政



最優秀賞の表彰状を
受け取る岡本代表
(右) 17日、湯梨浜
町のハワイアロハホ
ール

局長表彰では、最優秀
賞の門田地区農地・水
・環境保全会(湯梨浜
町)、優秀賞の上津黒
集落協定(八頭町)と
米郷特別栽培米コシヒ
深めた。
このうち門田地区農
地・水・環境保全会の
岡本隆夫代表が事例を
発表。「農家だけでな
く地域の団体を巻き込
み、環境保全や資源向
上活動をしたことで地
域活性化につながっ
た成果を示し、「若い
担い手に世代交代し
て、10年後を見据えた
活動を継続していき
たい」と語った。
(池田悠平)

2018年2月18日 日本海新聞

＝編集後記＝

保全会が、平成20年度に活動を始めてからちょうど10年の節目の年
に、「最優秀賞」という大きな賞をいただくことになりました。これも
地域の皆さんの協力があったこと。感謝、感謝です。



この度の受賞を励みとして、これからもいろいろな活動をしていきますので、引き続
き活動にご支援とご協力をお願いします。(平成30年3月)